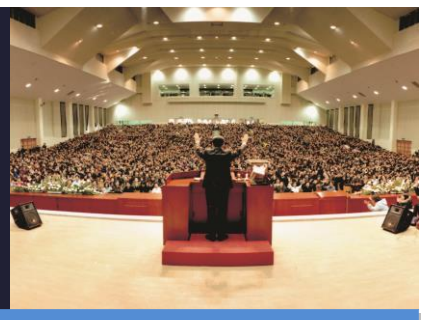
第 2017-31 号

恵みと真理のニュース



2017 年 7 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

私のような者を魂を救う道具として用いてくださって、世の中で豊かな救いの恵みを与えてくださる神様に感謝します

私はイエス様を全然知らないまま生きていくうちに真実にイエス様を信じる青年に出会い彼と教会で結婚式を行って信仰生活を始めました。旦那の実家で親と共に義弟達まで7人家族の世話をしながら、新婚の良い時間もなかったです。そんな状況で旦那をついて教会に行って礼拝を捧げて説教を聴いてもなかなか神様に対する信仰が出来ませんでした。生きるのが大変で心がいつも空しくて憂鬱だったです。旦那が聖書も買ってくれて使徒信条と主の祈りを覚えなさいと言われ努力しましたが、頭の中が真っ白になってなかなか覚えられなかったです。神様に対する信仰は自ら努力だけで持つのではないでした。引っ越しして教会を変えても同じでした。辛うじて主日だけ教会に行くサンデイクリスチャンの状態で信仰が全く進まなかったです。熱心に信仰生活をして楽しく暮らす聖徒達を見たらとてもうらやましくて自分は信仰が成長しないので苦しかったです。
1986年にアンヤン市ホゲ同に引っ越しました。市内を行き来しながら恵みと真理教会の多くの聖徒達を見て皆幸せな顔をしていてとてもうらやましかったです。それで、ある日は一人で恵みと真理教会に行きました。この日の礼拝に参加して当会長の牧師の説教を聴く時にかつてなく最初から最後まで集中をして御言葉を聴くようになりました。その日、牧師は私たちが神様を畏れ委ねて愛しながら生きるべきの理由と神様に対する正しい姿勢に関して話してくださいました。私はその御言葉に深く感動と感化されました。御言葉の恵みと聖霊様の働きで堅かった私の心が雪が溶かして神様に対する閉まっていた心の扉が開きました。
私は今まで外見と体面を重視しました。嫌でも旦那の体面を考えて教会に行く時が多くて、また体面の為堂々と教会に通う信者であることを人々の前で表せなかったです。体面のために人々に福音を伝えるのも躊躇しました。ところが、私の自分がとても恥ずかしかったです。私のような罪人を救うためイエス様を十字架を背負られ死なした神様の愛を悟って初めて心深く神様に感謝しその恵みに感激しました。
真実な心でイエス様を私の救い主として受け入れ楽しく教会に通い御言葉の恵みを願い礼拝に参席しました。そして、聖霊洗礼を受けるため時間を決めて断食祈りをしながら金曜祈りをするうちに金曜祈り会で聖霊洗礼を受けました。その日、讃美歌338章（神様に委ねます。）と204章（イエスを私の救い主）を歌って多くの涙を流しました。不平して嘆きの声が絶えなかった私の唇でこれは喜びと感謝の賛美歌が出るようになりました。神様の愛を悟ったほどもっと信仰生活をするようになって、神様を知らなくて信じない人々を哀れって彼らに力を尽くして福音を伝えています。御言葉の権能と働きによって驚くな変化でした。そうしながら私の家庭生活も変化が来ました。堅かった私の心が柔らかくなって舅姑と家族たちの世話が重みにならなくて幸せを感じるようになりました。特に今まで私のため多く祈ってくださった姑と勧士にその心と愛も深く悟るようになって感謝しました。
1990年に旦那がひき逃げ車両による交通事故に遭いました。2年間長い間病院で過ごした大きい事故でした。旦那を介護して舅姑と子供達3人の家計と生活の責任を負わなければならなかったです。人の力では耐えられない苦難でした。私は詩編119編71節"苦難と苦悩がわたしにふりかかっていますが／あなたの戒めはわたしの楽しみです。"御言葉とイザヤ41章10節"恐れることはない、わたしはあなたと共にいる神。たじろぐな、わたしはあなたの神。勢いを与えてあなたを助け／わたしの救いの右の手であなたを支える。"御言葉を強く握って神様を仰ぎました。その時は神様がくださる神霊な慰めと平安と神様がくださる新しい力がなかったら私は倒れてしまったのです。今はその時の苦難を思い起こしても考えられないほど当時には神様の恵みと苦難の状況をよく乗り越えるように助けてくださいました。苦難を克服したら神様は私の家庭に経済的に豊かに福を与えてくださいました。また、3人の子供達も真面目で健康に育つようにしてくださいました。そして、子供達が成長してすべてイエス様をよく信じる配偶者に出会って愛が溢れる信仰の家庭を作るようにしてくださって、区域長で執事で児童区域長としてすべて教会と聖徒を仕え福音を伝える主の働き者に用いてくださいました。
私は福音を伝える楽しみの中で生きています。主の御言葉に従順して実りを得ても得なくても熱心に人々を探し伝道します。何日前は膝が痛くて手術を受ける日にも外に出て福音を伝えました。一人の魂が尊いと思ったイエス様の心を考えたら痛いから伝道を休めませんでした。警備員に追い出されたり、清掃をする人々から悪い言葉を聞いても"．　はっきり言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。（ヨハネの福音書12：24）というイエス様の御言葉を考えながら熱心に伝道しました。伝道しながらもっとひどい迫害があったら　ステファノ執事のように人々から石に打たれなかったじゃん、パウロのように人々から殴られなかったじゃん。と一人で考えて屈しませんでした。当会長の牧師が山上の垂訓の説教をしながら福音を伝えながら迫害を受けたら天国で賞と褒められと聞いて部屋に入って笑いなさいと話したことが思いだしてその通りにしました。そうしたら、本当に大きく笑いだして力が出ました。そして、まもなく、手術しようとした膝が嘘のように痛くなかったです。伝道の熱情を見て神様が喜ばれて治療をしてくださったのです。それで、今も痛みもなく階段を上ったり下がったりしてイエス様に出会った井戸の女が水がめを放擲して町に出向いて人に"来てみなさい。"叫んだように永遠に喉が渇いていないミネラルウォーターを下さるイエス様を伝えます。
今まで伝道した多くの聖徒達が恵みと真理教会の各聖殿で素晴らしい働き者として献身奉仕するのを見るともっと力が出て熱心に福音を伝えようとします。私のような人を魂の救う道具で使ってくださった神様に感謝と賛美し栄光を捧げます。天国に行く日まで。主が呼ばれる日まで残った寿命まで全身全力で福音を伝えるのに献身します。神様に感謝します。

［信仰コラム］　イエス様が奇異に扱った人々

"イエスはこれを聞いて非常に感心され、ついてきた人々に言われた..."（マタイによる福音書 8:5～10、マカによる福音書 6:1～6）

イエス様が公の活動をしながら会った数多くの人々の中でイエス様を驚かした人々がいます。イエス様が表明なさった驚きはある人々に対しては嘆息の意味を持っているが、ある人に対しては感嘆の意味を持っています。
まず、イエス様がナザレの人々を奇異に扱った事件を調べてみましょう。
イエス様が約 30 年を過ごしたナザレという町を弟子達と共に訪問して会堂に入って教えられました。イエス様が教えられるお言葉を聞いて多くの人々が驚いて衝撃的な反応を見せました。彼らの驚きはと嫉妬に変わりました。ナザレの人々は聖書の予言を聞きながらメジヤを待ちかねたイスラエルの民でした。イエス様の教えを直接聞いて、イエス様が行われるしるしと奇跡を聞いて見ました。彼らはイザヤの予言が成就されて今救い主がお越しになって彼らの中におられる事実によって押さえることのできない喜びと感激を感じるのが当たり前です。しかし、却ってイエス様を排斥する行動をしました。ナザレ人々のこのような態度に対してイエス様は驚かれました。偏見と、嫉妬と傲慢が彼らの目を閉じるようにして耳を塞ぎました。イエス様がそこでは何の権能も行われないのでただ、少数の病人に手をおいて癒しました。
ナザレ人々より驚くべきな人々がいます。いわゆる母体信者だと言いながら聖書通りに信じない人々がそうです。牧師あるいは神学の教授だと話しながら非聖書的な聖書観とキリスト観を教える人を見ると驚きを禁じ得ません。また、数年の間福音的な教会に通った人が異端邪説に迷わされて引かれていくのを見ると誠におかしくて驚くべきです。また、礼拝と奉仕をおろかにする執事、勧士、長老を見ると怪しい考えができます。救われた喜びと感激があるとしたらそのような態度を持つのが可能ではないからです。
次は、イエス様がカペナウムで異邦人の百人隊長を奇異に扱った事件を調べてみましょう。
ある百人隊長がユダヤ人の長老をイエス様に行かせて中風の病で苦しむ自分の下人を癒してくださるのを懇請しました。イエス様が"私が行って治してあげる。"と言われて彼らと共に行かれるが百人隊長が友達を行かせてイエス様が彼の家に入られるのを引きとどめました。"主よ、わたしの屋根の下にあなたをお入れする資格は、わたしにはございません。ただ、お言葉を下さい。そして、わたしの僕をなおしてください。....。"としました。イエス様が百人隊長の言葉を聞いて奇異に扱われました。これは感嘆して驚きに扱ったことを意味します。
第一、百人隊長はイエス様がどなたであるかを知っていました。イエス様を指して"主よ"と呼びました。彼は聖書の預言を通じてメジヤのお越しについて知ったでしょう。更に、イエス様がカペナウムを本部として活動なさったので彼はイエス様が教えられるお言葉と行われるしるしと奇跡に対して知識を得ました。それによってイエス様が聖書に預言されたメジヤという事実を分かりました。全ての病を治す医大な医者だということを知りました。イエス様から主神様の威厳と権勢をみました。従って、イエス様が自分の家に入られるのを耐えることができなかったのです。第二、百人隊長はイエス様のお言葉に絶対的な権威があるのを知りました。イエス様が言われるとそのお言葉は信じる者にそのまま叶えられるということを信じました。これは天地をお言葉でお造りなさった神様の能力と権勢を知る知識から出たのです。百人隊長はイエス様のお言葉とイエス様は一つである分離できないという事実を知る知識と信仰がありました。
私達はその当時のユダヤ人より信仰を持つに優れた条件を持っています。新旧約聖書を全て持っています。イエスキリストの救いの使役が成就された以降に住んでいます。求める全ての者に聖霊を注いでくださる時代に住んでいます。皆さんは我が主からナザレの人のように"怪しく扱われる"人になるず、百人隊長のように"非常に感心される"信仰を持った聖徒になるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

聖書に啓示されたクリスチャンの実状

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエス・キリストを信じる人は、自分の実状を必ず分かる必要があります。自分の実状を明らかに確認するには、聖書を読まなければなりません。本文は「 ほめられても、そしられても、悪評を受けても、好評を博しても、神様の僕として自分をあらわしている。わたしたちは、人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、人に知られていないようであるが、認められ、死にかかっているようであるが、見よ、生きており、懲らしめられているようであるが、殺されず、 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、貧しいようであるが、多くの人を富ませ、何も持たないようであるが、すべての物を持っている。」としました。本文はクリスチャンの世の中の認識と判断の関連して、その実状を明らかにしています。世の中という言葉が聖書には、いろいろの意味で使用されています。空間的な世の中と、時間的に限定される世代は、サタンが支配する領域などを意味します。あるいは世の中のすべての人、特にイエス・キリストを信じていない人を意味します

第一は、ほめられても、そしられてもとしました。

世の中がクリスチャンを悪口して憎む理由は何ですか まず、 第一に 所属が異なるからです。クリスチャンはイエス様に属する人です。第二に、未信者たちに熱心に伝道するためです。第三に、他の宗教を信じている人たちに、イエス・キリストだけが救い主である、イエス・キリストを信じる者だけが救いを得るとするからです。しかし、イエス様を信じる人は、世の中が侮辱しても恥ずかしがらず、むしろ喜んでいます。その理由は、世の中が与えられず奪うことができない栄光が約束されているからです。イエス様がおしゃっるのを ″義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言者たちも、同じように迫害されたのである。″（マタイによる福音書，5：10～12）としました。「キリストの名のためにそしられるなら、あなたがたはさいわいである。その時には、栄光の霊、神様の霊が、あなたがたに宿るからである。（ペテロの第一の手紙，4:14）しました。世の中がイエス様を信じる人を侮辱しても、実際は尊い人です。栄光の霊、すなわち神様の霊が彼の上にとどまっているからです。

第二は、悪評を受けても、好評を博してもとしました。

世の中は、イエス様を信じる人を悪評する傾向があります。初代の教会の時代も今も相違がありません。しかし、世の中がイエス様を信じる人々をどの悪の名前で呼んでも実状は、美しい名前を持っている人です。聖書に記載されて名前はこうします。

まず、第一 義人と呼びます。第二、聖徒と呼びます。第三に、クリスチャンと呼びます。第四に、神様の民と呼びます。第五に、神様の子どもと呼ばれます。世の中の人が私たちの名前をいくら誹謗、悪に言っても、そのために私たちの名前が汚れはありません。しかし、私たちが義人らしくない聖徒らしくないにキリストに属する者にふさわしくない、神様の民らしくない、神様の子どもらしくない行動をすると神様の栄光を覆うということを覚えておいてください。

第三は、 人を惑わしているようであるが、しかも真実であり、としました。

世の中の人々がクリスチャンを偽り者と覚えるのはなぜですか？イエス・キリストの処女から誕生とあがないの死と復活と天に昇り再臨を話すからです。未信者はこれらの福音の真理を途方もないものみなし。事実、イエス・キリストの処女の誕生 とあがないの死と復活と天に昇りと再臨を信じる信仰は、神様の恵みを受けずには持つことができません。これらの信仰は、神様がその選ばれた者たちに賜物です。さらに、イエス様の再臨のときに聖徒たちが復活して変化した身体を被ることことについて言えば、さらに雲をつかむ思いをする人のように考えてい。救いと来世に関する世の中の哲学、科学と宗教の教えはすべて欺く言葉に過ぎません。聖書に啓示された言葉だけが真実です。聖書のどおり言うクリスチャンを未信者が欺く者のように思うも実際は真の者です。

第四は、人に知られていないようであるが、認められとしました。

有名なろうということは、罪ではないが、神様の御旨を逆らって、神様の栄光を妨害しながら有名になろうとするのは罪です。本当のクリスチャンは、神様が喜ばれない名声を求めていません。神様が認めていない有名は有名無実です。将来主のさばきの座の前に立つ時にのぞかれを受けられます。クリスチャンは世の中でたとえ無名に覚えても、神様の国では、有名な人です。ピリピ人への手紙，4 章 3 節に見ると、「 ついては、真実な協力者よ。あなたにお願いする。このふたりの女を助けてあげなさい。彼らは、「いのちの書」に名を書きとめられているクレメンスや、その他の同労者たちと協力して、福音のためにわたしと共に戦ってくれた女たちである。いのちの書に名が記録された人が本当に有名な人です。

第五は 死にかかっているようであるが、見よ、生きておりとしました。

初代教会から今まで多くのクリスチャンが信仰を保つために殉教をしました。永遠の命を知らない人は、クリスチャンが逮捕されて拘留され処刑されるのを見てこう言う。“イエス様を信じないこれただ一言だけで生きることができるものであるのに殺されながら ″ ところが、このような事実を知っている。 “イエスは彼女に言われた、「わたしはよみがえりであり、命である。わたしを信じる者は、たとい死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。あなたはこれを信じるか」（ ヨハネによる福音書，11：25,26）しました。クリスチャンが経験する死とは肉体の幕が崩れる瞬間に霊魂は天使たちにささえられて天国に入るから、主観的な経験では、死がありません。そして肉体は復活の日に変化した体で生かされます。

第六は、 懲らしめられているようであるが、殺されずとしました。

使徒パウロは、このような経験を無数にしました。ピリピの監獄で、神様の大きな力が臨ん看守長と家族をキリストに導くし、彼は 監獄から解放されました。ローマでも監獄に閉じ込められたが、獄中生活を介して護衛人々に福音を伝え、クリスチャンになるようにし、獄中で記録した手紙が聖書になりました。聖徒たち一人一人の経験もこれを証明してくれます。いろいろの問題と困難を受けるときは、懲戒を受け捨てられる者のように見えるが、むしろ、主の能力を深く体験するようになります。信仰がより強固になり、純粋なています。 「 わたしたちは、四方から患難を受けても窮しない。途方にくれても行き詰まらない。 迫害に会っても見捨てられない。倒されても滅びない 」（ コリント人への第二の手紙，4：8,9）体験をすることになります。

第七は、 悲しんでいるようであるが、常に喜んでおり、としました。

クリスチャンは未信者がしない心配をします。福音を信じず滅亡の道に行く家族や近い人を思いながら心配になります。信仰が弱い者を見た時にもし試験に落ちるを取得されないか、信仰を捨てではないか心配になります。これらの神聖な心配は救いにつながる役割をします。クリスチャンはこのように、未信者がしない心配があるが、一方で、未信者が持つことができない喜びがあります。「 主の聖徒よ、主をほめうたい、その聖なるみ名に感謝せよ。その怒りはただつかのまで、その恵みはいのちのかぎり長いからである。夜はよもすがら泣きかなしんでも、朝と共に喜びが来る。」（ 詩篇，30 ：4,5）としました。

第八は、 貧しいようであるが、多くの人を富ませとしました。

クリスチャンは彼が持って富や学識の多寡にかかわらず、常に他の人を富まにして生きていきます。他の人の生活を豊かにする上で、福音を伝え信じているよりも優れたことはありません。クリスチャンは、心に空虚を感じながら渇望する人々にキリストによるの信仰、希望、愛でその心を満たしてくれることができます。クリスチャンは、神様が与えてくださる神霊な賜物を受けて、他の人に益を与えます。貧しい者と同じあっても、実際は多くの人に真の富を得るようにします。

第九は、何も持たないようであるが、すべての物を持っている者であるとしました。

クリスチャンは、実際には何もない者のように生きなければならないという言葉です。真のクリスチャンは、世の中の名誉、地位、権威、富を所有しても、何もない者のように、主に頼り、絶えず神様を待ち望みます。クリスチャンは何もない者と同じようで神様が時々に助ける恵みをほどくして日々の物を下さってすべての物を持ったのと間違いありません。クリスチャンは、この世の者とは比べることができず、換わることができない天に属する霊的なことを所有しているという事実を考えて富む意識が必要です。クリスチャンは世の中がどのように認識して扱うかどうか、その身分は非常に尊いであり、その所有は深く豊富です。

愛する皆さんはすべて「今日の本文は、私の実状をそのまま形容したものです。」と証言して証明して生きて行かれると願いします。